

短報

2 個の仏炎苞をつけるモエギタカハシテンナンショウの奇形について

久保徹太¹・矢野興一^{1*}・邑田 仁²*Arisaema nambae* Kitam. f. *viride* H. Ikeda, T. Kobay. & J. Murata (Araceae) with duplicate spathes found from Okayama Prefecture, JapanTetta KUBO¹, Okihito YANO^{1*}, and Jin MURATA²**Abstract:** *Arisaema nambae* Kitam. f. *viride* H. Ikeda, T. Kobay. & J. Murata (Araceae) with two spathes, one a normal spathe enveloping the spadix, and the other attached to the node below, was found from Okayama Prefecture, Japan.

I. はじめに

モエギタカハシテンナンショウ (*Arisaema nambae* Kitam. f. *viride* H. Ikeda, T. Kobay. & J. Murata) は、サトイモ科テンナンショウ属タカハシテンナンショウ (*A. nambae* Kitam.) の 1 品種として、2012 年に岡山県加賀郡吉備中央町から新記載された多年生草本である (Ikeda et al. 2012). 母種のタカハシテンナンショウは岡山県西部から広島県東部に固有な植物であり、4 月～5 月に肉穂花序をつけ、その花序を包む紫色を帯びた仏炎苞 (図 1 A) を通常 1 つもつことが知られている。一方、モエギタカハシテンナンショウは萌黄色 (淡緑色) の仏炎苞をもつことでタカハシテンナンショウと区別できる (図 1 B)。

著者の 1 人 (久保) が、2017 年 5 月に岡山県加賀郡吉備中央町での植物調査中に、通常のものとは比べて著しく異なり、仏炎苞を 2 つもつ奇形のモエギタカハシテンナンショウを見つけたので、その概要を報告する。

II. 観察結果

仏炎苞を 2 つもつモエギタカハシテンナンショウは、岡山県加賀郡吉備中央町のスギ・ヒノキ林の林縁に 1 個体生育しているのが確認できた (図 2 A)。周辺にはモエギタカハシテンナンショウ 7 個体とタカハシテンナンショウ 73 個体が生育しており、すべて通常の仏炎苞をもっていた。

仏炎苞を 2 つもつモエギタカハシテンナンショウは、高さ約 108 cm、葉は 2 個で葉身は鳥足状に分裂し、小葉は 5～6 枚であった。偽茎部 (花序柄を

包む筒状の葉柄) から伸びた花序柄は高さ約 44 cm であり、その途中に萌黄色 (淡緑色) を帯びた 1 つめの仏炎苞があり (図 2 B)、先端に、萌黄色 (淡緑色) を帯びた 2 つめの仏炎苞に囲まれた通常の花序をつけていた (図 2 C)。

テンナンショウ属では仏炎苞が 2 つ接近して生ずる奇形は珍しいものではないが、今回のように 2 つの仏炎苞の間が離れており、その間にはっきりとした茎 (花序柄) を形成することは非常に稀である。

テンナンショウ属の茎の本体は地下茎であり、仏炎苞以外の葉は地下茎につける。花序柄のみが地上に出てくる茎であり、茎の最後の節につく葉が仏炎苞である (邑田 2011)。花序柄の先には仏炎苞に囲まれた肉穂花序をつけ、さらにその先端に花序付属体をつける。肉穂花序の軸および花序付属体は花序柄の延長と考えられており、通常は花序付属体を形成して成長を終える。

モエギタカハシテンナンショウとタカハシテンナンショウの地上部は高さ 15～50 cm ほどであるが、仏炎苞を 2 つもつ奇形のモエギタカハシテンナンショウは、高さ約 108 cm と通常個体の 2 倍程度も地上部が高いことがわかった。

従って、今回見つかった奇形のモエギタカハシテンナンショウは、仏炎苞をつけた後、本来肉穂花序を形成するはずの茎頂が花序柄としてそのまま成長し続け、その先端で通常の花序を形成したと考えられる。その結果、花序柄の途中と先端にそれぞれ仏炎苞が生じたと考えられる。通常の 2 葉と第 1、第 2 の仏炎苞はほぼ互生しており (図 2 A)、同一軸

1. 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学生物地球学部生物地球学科 Department of Biosphere-Geosphere Science, Faculty of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan. * Corresponding author

2. 〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1 東京大学大学院理学研究科附属植物園 Botanical Gardens, Graduate School of Science, The University of Tokyo, 3-7-1 Haku-san, Bunkyo-ku, Tokyo-to 112-0001, Japan.

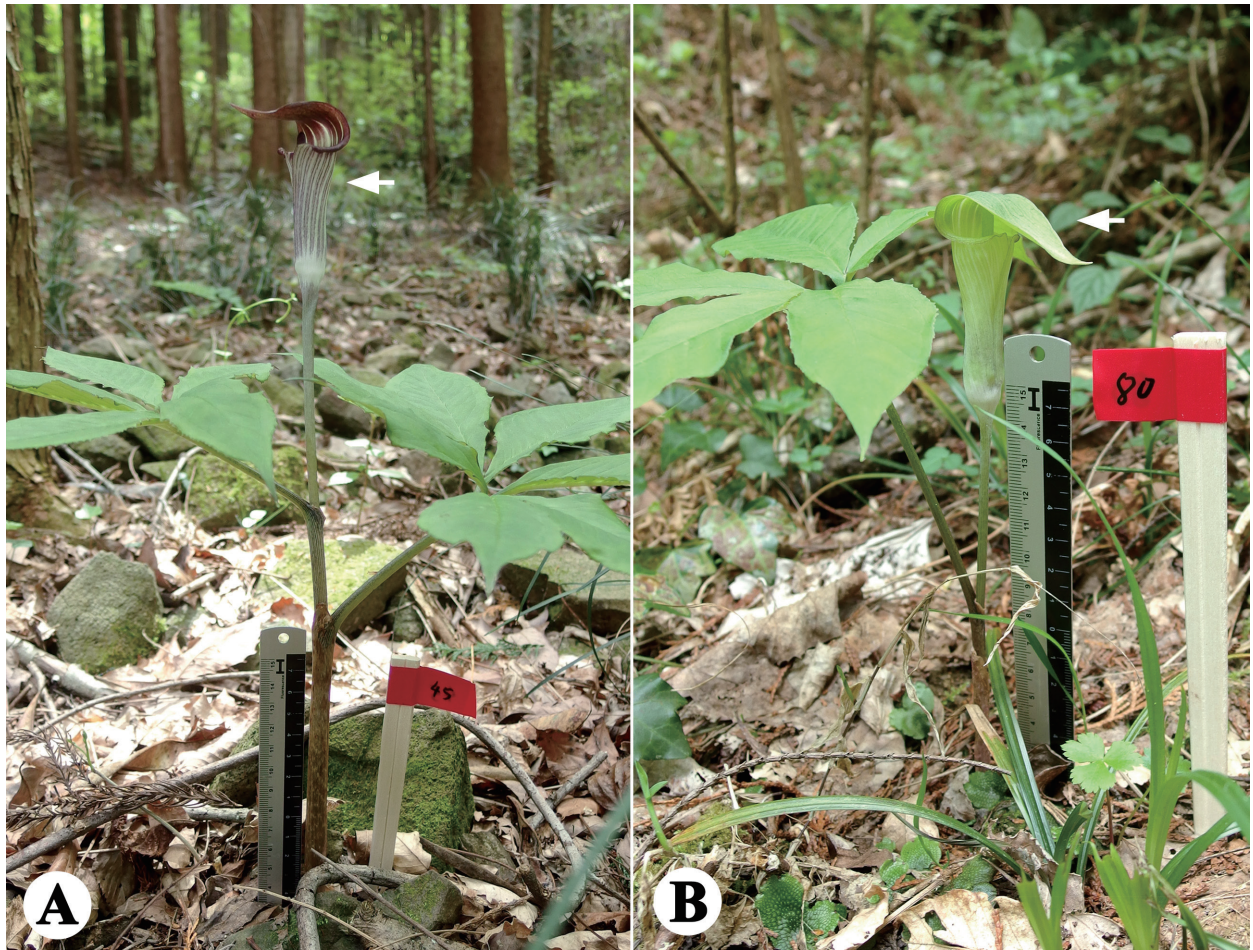


図1. タカハシテンナンショウ(A)とモエギタカハシテンナンショウ(B)(通常個体). 矢印は肉穂花序を包む1つの仏炎苞である. 仏炎苞の上部は開いており, そこから棒状の花序附属体が見える.

上に形成された葉であることを示していると考えられる.

III. 証拠標本

モエギタカハシテンナンショウ *Arisaema nambae* Kitam. f. *viride* H. Ikeda, T. Kobay. & J. Murata (奇形)

岡山県加賀郡吉備中央町, 標高 約360m.

JAPAN. Honshu. Okayama Pref., Kaga-gun, Kibi-chuo-cho, ca. 360 m alt. (T. Kubo s.n., 3 May 2017, OKAY).

IV. 謝辞

東京大学総合研究博物館の池田 博准教授にはモエギタカハシテンナンショウの生育地情報を提供していただきました. 記してお礼申し上げます.

V. 引用文献

Ikeda, H., Yamamoto, N., Kobayashi, T., Murata, J. (2012). A new form of *Arisaema nambae* Kitam. (Araceae), an endangered aroid in Western Japan. *Journal of Japanese Botany* 87: 398-401.

邑田 仁 (2011). 原色植物分類図鑑 日本のテンナンショウ. 265pp. 北隆館, 東京.

(2017年7月18日受理)

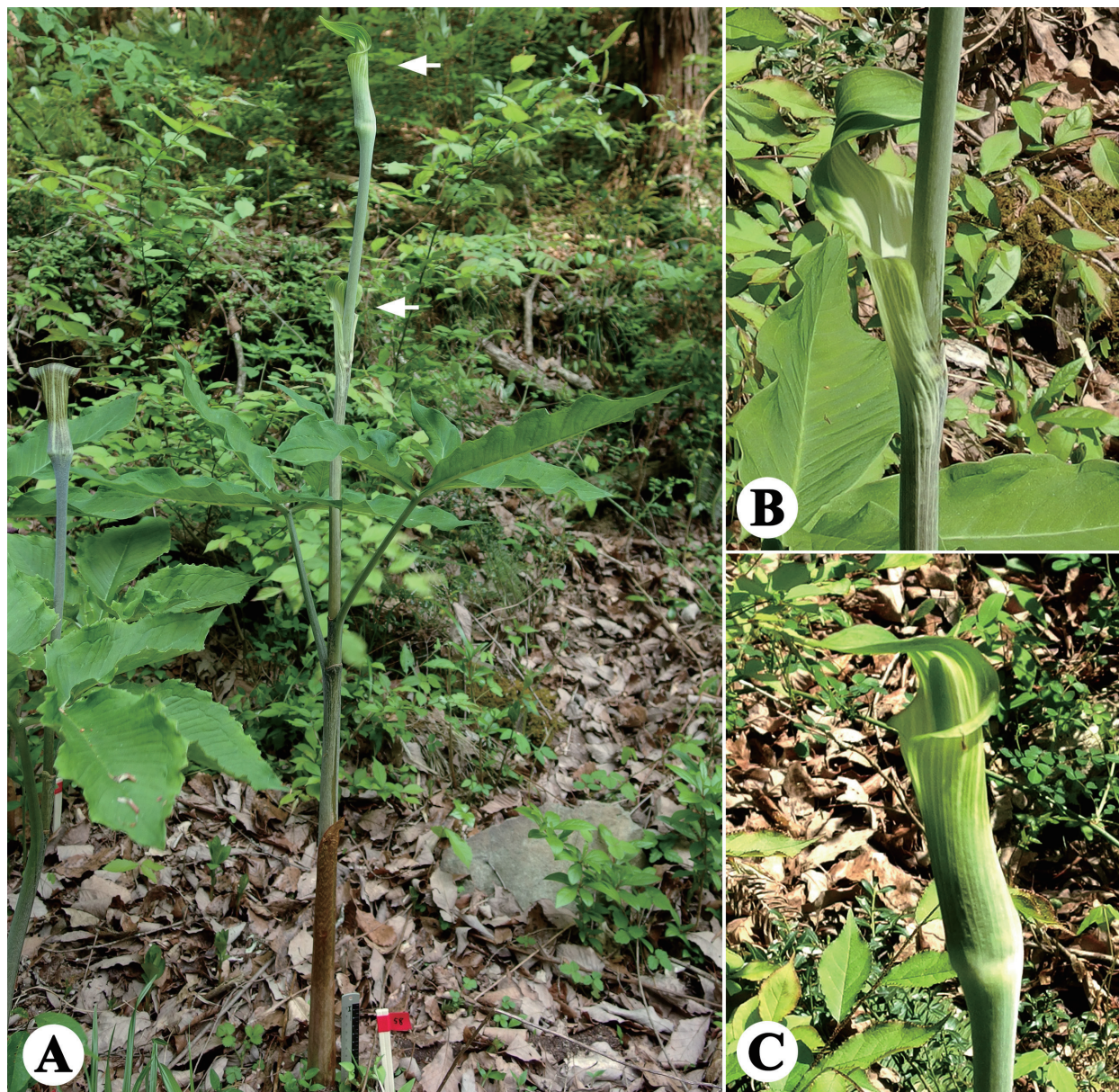


図2. 仏炎苞を2つもつモエギタカハシテンナンショウ. A: 地上部の全形. 矢印は仏炎苞を示す. B: 花序柄の途中に見られた1つめの仏炎苞. C: 肉穂花序を包む仏炎苞. 仏炎苞の上部から緑色を帯びた棒状の花序附属体が見える.